

永平寺と琵琶湖周辺の史跡を訪ねる歌紀行（4）

長崎史談会名誉会長 宮川 雅一

大勢の観光客である。その中に混じって、ここでも苦手の急な階段を上り下りしただけで、楽々園の庭園である玄宮園には行かず、もと来た道に戻ってバスに乗り込む。高速に乗り、昼食をする長浜に向かう。長浜は、古い町並みを保存整備して、「まち歩き」で町おこしに成功したところで、食事後街を散策すると、日曜日とあって結構大勢の観光客が街を歩いていた。歩く姿を勝手に記念写真に撮って、千円で売りつけていたが自分はその手には乗らなかった。「龍馬伝」に続くNHK大河ドラマ「江～

姫たちの戦国～」ブームに期待を寄せているようだ。「お江」は、織田信長の姪、豊臣秀吉の側室お茶々の末妹、徳川二代將軍秀忠の御台所。



22、長浜は 秀吉ゆかりの 歩く町

龍馬の次なる「お江」に期待

豊臣・徳川の天下分け目の決戦場、関ヶ原に急ぎ駆けつける。関ヶ原町歴史民俗資料館の駐車場で下車し、まず、近く陣場野の徳川家康最後陣跡へ行く。石標が石垣で造られた壇上に墓標のように立っていた。ここで勝利後首実検をした場所である。

23、家康の 陣屋を示す 石の標

あなおそろしや 首実検の場

資料館に戻って、北方を眺めると、斜面に田畑が広がっていて、あちこちに旗指物がはためいている。

24、関ヶ原 天下分け目の 決戦場

秋空の下 斜面に広がる

バスで、「史跡 関ヶ原古戦場」の石標・決戦地と記す大きな幟として徳川・石田両軍の旗指物が2本づつ立つ場所に行き、記念撮影、それから、笹尾山石田三成陣跡へ歩く。ここがまたかなりの坂道、誰か親切な人の助けを借りて上り詰めたら、



関ヶ原の全景が見渡せる絶好の場所であった。それでいて人心を得ていなかった三成は負けた。

25、三成の 陣屋は高さ 丘の上

敗報聞くは ここらあたりか

今日のうちに、まだ行くところがあるので先を急がなければならない。ガイドブックなどを探して回る。名神高速・北陸自動車道と乗り継ぎ、右に姉川古戦場や「お江」の父浅井長政の小谷城跡が、右に賤ヶ岳が見えたところで、近江・滋賀県におさらばして、敦賀・福井県に入る。山中和トンネルばかり続く道を進むうちに、海が見えてきた。敦賀湾である。日本海である。海の色が違っている。今から14年前、平成8年(2006)10月、長崎釈尊鑽仰会の研修旅行「心の旅」で永平寺を最初に訪れたときに次のような短歌を詠んでいる。

26、今庄の トンネル過ぎて 越前の

目指す聖地は 近づきにけり

27、湾ごしに 原発見ゆる 敦賀みち

秋空に聞く 事故のその後を

前記「心の旅」直前に原発の事故があり、日本中の大きな話題となったが、今年また事故があったことに、不思議なめぐり合わせを実感する。地球温暖化対策の観点から是認をとるか事故の危険性を重視して否認すべきか、難しい判断を迫られる問題ではある。

バスは、敦賀国から越前国に進み、永平寺町を通り過ぎて、丸岡ICで高速を降り、丸岡城へ急ぐ。現存する天守閣では最古とされ、国の重要文化財に指定されている。また 本多作左衛門重次が有名な「一筆啓上 火の用心 おせん泣かすな馬肥せ」を書いたことから、全国から「短文の手紙」を募集して「町づくり」に役立っている。おせん、つまり仙千代が6代目丸岡城主本多成重の幼名。



28、丸岡城 現存最古の 天守閣

柴田に本多、有馬が城主

ここでも急な階段を上って頂上から結構広い越前平野を眺望する。時間がないのですぐ下りて、お目当てのひとつ、この城主であった有馬晴信の子孫たちが眠る墓地のある有馬家菩提寺「高岳寺」を探す。丸岡を居城にしたのは、晴信の子供の直純を初代として3代の清純のときからであるが、初代直純以下の墓石の大きな五輪塔が現存していた。後で入場料として一人300円を請求されて支払う。

29、処刑され 家名残した 晴信の

墓石は見えず 丸岡の寺

(次回に続く)